

8館存続を望む意見

- 平成22年「提言」を尊重すべき
- 「知る権利」を保障するためには8館が必要
- 公共交通が貧弱な北杜市には地域に図書館が必要
- 広い市域には8館でも少ない
- 図書館は地域住民の「居場所」でもある
- 住宅事情が悪化しているから地域に学習できる「場」が必要
- 運営コスト削減は施設整理以外にも工夫できる
- 現状ではすべての図書館が複合施設。図書館だけ廃止しても公共施設の総量削減につながらない
- 集約・大規模化するとかえってコスト増になるのでは
- 図書館以外の施設を減らしたらよい
- 図書館利用者の声を最優先すべき

8館存続を望む声の中心には、地域住民の居場所であったり、学習の場、活動の場であり、8館の存続を望んでいる。また、広い北杜市にあっては、8館でも少ないといった意見。

再編整備を望む意見

- 平成22年「提言」が未来永劫、有効とは限らない
- 児童館が整備され、子どもの「居場所」としての役割は薄れた
- 8館も要らない。8館とも倒れになる
- 市政、市民生活全般を考慮すべき
- 将来世代に負担を負わせたくない
- 多機能・高付加価値な図書館が必要
- 社会の変化に応じて図書館も変わるべき
- 集約して大きなイベント・行事を開催してほしい
- 若い世代には葦崎ニコリのような施設が必要
- 若い移住者にアピールできる魅力的な図書館が必要
- 地域にサロンのような集いの場があれば図書館でなくともよい
- 段階的な集約が望ましい

気軽に利用できる集いの場、行政・地域とのつながりの場を求めている。若い世代が魅力を感じさせることが大事。また、将来世代に負担を負わせたくないといった意見。